（資料３）

旧小守家住宅主屋（きゅうこもりけじゅうたくしゅおく）

員　数：１件

所在地：犬山市大字犬山字東古券 498

所有者：個人

１　登録理由

犬山城下東側の魚屋町通りに位置する町家。当初は中２階であり、大正期の建築でありながら、近世以来の形式を備えている。

（登録基準：国土の歴史的景観に寄与しているもの）

２　概要

木造２階建、瓦葺、建築面積 165 ㎡、建設年代　大正 12 年

／昭和 34 年頃、平成 22 年改修

旧小守家は、犬山城城下町の北寄り東側の魚屋町通りの東端に位置する。この通りは「善師野[1]往還」と称し、城下町から東へ抜けて中山道に通じる主要な街道であった。小守家は、江戸時代から小守姓を名乗り、木屋の屋号で養蚕具業の商家であった。

１階は手前二間半部分と東側の北奥二間を低い床を張ったミセとし、中央二間分を半間後退させて履物脱ぎ場とし、ミセ部分は展示場として活用している。西側奥は八畳室を二室並べ、北側に半間の廊下と便所を配し、当初は南側の八畳室に仏壇を置いていたが、現在は北側の八畳室の西側半間を床と仏壇としている。

２階は、東西側の端に半間の床、押入を配し、二間四方の部屋を三列に九室並べた配置としている。中央の階段は２階の中央室の間仕切、敷居、鴨居を切断して納めている。当初は北西隅に四畳半の和室で南東側に矩型[2]に廊下を配した造りであった。中央室の北側室に階段が配されていて、東南隅の片引戸で中央室に出入りしていた。西北隅の部屋は１階の上座敷の関係で、梁が天井裏に組まれており、床が 40cm ほど高くなっている。

この建物は大正 12 年の建築であるが、２階正面側は当初は廊下が無く、複壁付の格子戸であり、犬山の町家の典型的な形式で建てられている。

---

[1]善師野：元々は、中山道の宿場であったが、江戸時代に中山道と名古屋城下を結んだ上街道の宿場となった。

[2]矩形：長方形のこと。

犬山の伝統建築を受け継いだ大工の手により、内部には当初材も随所に残されており、材料も良質な建物である。余坂の木戸前に建てられていて、明治維新後に土居跡に屋敷地を拡張していることが明確に分かるのも貴重である。

南東正面（犬山市教育委員会提供）

２階南西室（犬山市教育委員会提供）

２階南側中央室（犬山市教育委員会提供）